

でらも 大阪府 伝統野菜広げよう 食べることが応援に

大阪府の農業、消費者団体などがつくる「農」に親しむライフスタイル推進府民会議は7日、大阪府でなわの伝統野菜と大阪の食文化を考えるフォーラムを開いた。栽培しにくく、量がそろわない伝統野菜を広げるため、地産地消による地元支援の必要性を強調し

た。約200人が参加。なにわの伝統野菜は、長さ1・3びにもなる「守口大根」や黒いぼて瓜など、一度は市場流通から姿を消した個性的な在来野菜。ここ数年、関係者の努力で20種類以上が復活している。伝統野菜を支援する特

表は、野菜市場に頼らない流れの必要性を強調した。「大阪でしか食べられない価値が重要。まずは直売所や府内スーパーで府民が購入し、支援することが大切。京野菜に負けないブランドになるはずだ」と呼び掛けた。同会は、認証制度の設立も発表した。
また、関西消費者協会の林郁理事長は「品種改良されていない伝統野菜には忘れかけた旬がある。それを味わえる大阪の消費者のメリットは大きい」と食文化の大切さを説明。生産現場を知り、適正価格の購入など理解を求めた。